

市内の認知症カフェ運営者が集う

なごや認知症

NEWS

認知症をテーマに、認知症の人や家族、地域住民、専門職など誰でも気軽に参加・交流ができる場「なごや認知症カフェ」。

取り組みがはじまって約1年半。現在、市内106箇所で開催されています。

今回、市内のカフェに呼びかけ、「認知症カフェ運営者交流会」を開催しました。

学び合い、交流し、アイデア出し合う

名古屋市内において力を入れて取り組んでいる「なごや認知症カフェ」。

平成28年12月時点で106箇所のカフェが開設し、主に介護事業所や福祉施設、医療機関、地域のボランティアなどが運営しています。

12月14日、よりよいカフェづくりを目指して「運営者交流会」を開催し、カフェ運営者と認知症地域支援推進員など総勢81名が集いました。前半は、愛知淑徳大学・金治助教から、カフェを対象に実施したアンケート調査の結果報告があり、その後、藤田保健衛生大学・武地教授から「認知症カフェを拠点とした地域づくり」について、講演いただきました。

後半のグループ交流では、カフェをやって良かったことや日頃の活動の工夫などについて情報交換しました。参加者から「認知症の本人・家族が過ごしやすい場にするために席の配置やスタッフの対応に配慮している」「地域の方々にカフェを知ってもらえるように町内の行事に積極的に参加している」などの意見が出て、お互いの活動から学び合う機会となりました。大盛況のうちに終わった交流会。これからも年に1回実施し、カフェの活動を盛り上げていきたいと思っています。

◆港区で認知症サポーターとカフェの交流会を実施

各区でカフェの活動支援が行われているなか、今回、港区では12月5日の「認知症サポーターフォローアップ交流会」のなかでカフェ運営者と認知症サポーターの出会いの場を設けました。

グループでの交流を通じて、カフェがどんな場所なのか認知症サポーターの皆さんに知ってもらう機会となりました。

今後、カフェ運営に協力してくれるサポーターが増えるといいですね！



なごやの認知症の今が分かる

●発行●

名古屋市認知症相談支援センター

✉ n-renkei@nagoya-shakyo.or.jp

☎ 052-919-6622 052-913-8553

※本センターは、名古屋市社会福祉協議会が名古屋市から委託を受けて実施しています。

若年性認知症講演会 「当事者の声に耳を傾けるといいうこと」

11月21日（月）、中区の鯉城ホールで平成28年度名古屋市若年性認知症講演会を開催しました。

今回は「当事者の声に耳を傾けるといいうこと」をテーマに、がんや認知症など当事者の声を集める活動を行う「認定NPO法人健康と病いの語りデイベックス・ジャパン」の事務局長佐藤（佐久間）りかさんとレビー小体病当事者の樋口直美さんが登壇しました。

認知症の母を介護する家族の立場でもある佐藤さんからは、認知症の症状を当事者の声からとらえなおすことが大切だと話がありました。

樋口さんからは、幻視や自律神経症状などの症状を具体的に説明し、人それぞれ症状が違い、医療やケアも当事者の声を聴きながら考えていくことが大切だと話がありました。



対談する佐藤さん（右）と樋口さん（左）。

講演会でオリジナルソングを披露するあゆみの会メンバー。オリジナルソングはメンバーの大切にしたい言葉をつないでつくりました。



おすすめ！あなたのまちの推進員（第二回）

天白区、コンビニ従業員向け

認知症サポーター養成講座開催

天白区

天白区では、推進員の事業計画のひとつとして「ターゲットに特化した認知症サポーター養成講座の開催」を掲げています。今回は名古屋市内はいかにかい高齢者おかしり支援事業の平成27年4月～12月の検索協力依頼メール配信実績から「検索協力依頼メール配信のあった約180件のうち4件がコンビニにて発見されている」ことに注目。推進員の小林さん・赤尾さんを中心にコンビニ従業員向けに開催しようと立案しました。

一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会（以下「JFA」という）と相談し、まちのセーフティーステーション（SS）活動の一環としてコンビニ従業員向け認知症サポーター養成講座を開催することにしました。

JFAにとっても協働開催は全国で初めての試みということで、

土曜日と平日夜に2回開催。43名の方に参加していただきました。

講義のほか、参加者といきいき支援センター職員との意見交換の時間を設けました。「同じものを何度も買うからといって認知症とは判断できない。様子を伺いな」がらさりげなく声かけしている」や「高齢者の多いエリア。時間をかけて対応したいが、他のお客様の理解が得られないときもある」などの意見が出され、非常に有意義な時間になりました。

いきいき支援センターの役割を知っていただく機会になり、コンビニとの連携を図る新たな『きつかけ』になったと思います。



当事者キャラバン・メイト活躍中

9月の名古屋市キャラバン・メイト養成研修で全国でもまだ少ない「当事者キャラバン・メイト」が名古屋市内で誕生しました。

キャラバン・メイトになった山田真由美さん（56歳）は、51歳のときに若年性認知症と診断されました。「認知症への理解を広めた」という思いから研修を受講し、キャラバン・メイトとして活動を始めました。

10月下旬に、山田さんの母校でもある西区の西陵高校ではじめて認知症サポーター養成講座で講師役を務め、30人以上の生徒さんの前で困りごとである着替えを演ししながら当事者の声を伝えました。

「難しいサポーターではなくちよつとした声かけなどでも当事者は助かる」と体験談も交えながらお話しされました。この様子はNHKのニュースでも取り上げられました。

はい、こちらは認知症 コールセンターです！

『早期・初期の気づき』

「ご家族から相談を受ける中に、以前に比べて何かおかしい」という話を聞くことがよくあります。

●以前との変化

怒りっぽくなった

物の置き場所を忘れる

同じ話を繰り返す

お金に執着するようになった

お風呂に入らなくなった

等

少しでも心配がある場合には、かかりつけ医に相談していただくようお願いしています。受診先のない方には医療機関の情報提供の他、いきいき支援センターの忘れ相談医による専門相談も、受診への足掛かりとして紹介しています。

早期発見・早期対応が次の支援につながります。

1日あたりの平均相談件数（28年11月）

5.8件